

ビデオを使った授業

ビデオの利点

- (a) 学習者の動機づけが容易。たとえ語彙力が限られていても、映像の続きを見たがる。
- (b) ビデオを通して、異なる習慣や衣食住などの文化、そして個人関係を即座に学習できる。
- (c) ビデオの中で話される英語は、現実世界のものであり、言語材料として authentic である。
- (d) ディスカッションやインフォメーション・ギャップなどのコミュニカティブな活動を展開。

指導テクニックとタスクの例

1) Pause/Freeze-Frame Control: 画面をポーズボタンで静止する方法。	
Repetition Practice	画面を止めて、発せられた単語の発音、イントネーション、文法構造、イディオムなどをリピートし練習する。
Comprehension Questions	止まった映像を見て、教師側から状況についての質問 (5W1H) を行う。
Prediction	止まった映像を見て、これからどうなるのか予測を英語で書かせたり、口頭で発表させる。画面の中の登場人物がこれから何か話そうとしているとか、何か反応しようとしているとか、面白い表情が顔に浮かんでいるシーンで映像を止めると効果的である。
Note-Taking	一定間隔ごとに映像を止めて、止まるまでのシーンの出来事やセリフを英語で書き留める高度な作業。最終的に口頭で発表させたり、要約を書かせたりするとよい。
2) Sound-Off/ Vision-On (Silent Viewing): 音声を消して、映像だけを観る方法。	
Comprehension Questions	学習者は画面を通して、登場人物の年齢、性別、容姿、衣服、社会的地位、気分、感情などを理解できる。教師は場所、登場人物、状況などビジュアルな場面に関する質問をする。
Dialogue Quiz	あらかじめ紙に書かれたセリフを誰がしゃべったか合わせる、Dialogue-Matching 形式のものといくつか空所のあるセリフを考えて埋めていく Fill in the Blank 形式のものが考えられる。後者の方が難解である。終了後、音声付きで視聴し解答。
Guessing/Prediction	顔の表情とかジェスチャーのようなを見て、なぜ登場人物がそのようなふるまいをしているのかペアで考え、学習者全員の前でその表情やジェスチャーを真似ながら発表する。paralinguistic traits を学習する良い機会になる。終了後、音声付きで視聴。
Screenplay-Writing	ペアでスクリーンプレイを考えて書く。終了後、本物を音声付きで視聴。自分達の書いたものと比べてみる。
Audio-Dubbing	ペアで書いたスクリーンプレイを本物のサウンドトラックとそっくり入れ替えて、完成後、全員で鑑賞する。技術面でのサポートが必要。
Caption-Writing	キャプションをペアで作り、大きな紙に書いて、映像に合わせて学習者全員に見せる (サイレント・ムービー)。

3) Sound-On/ Vision-Off (Sound Only): 映像を消して、音声だけ聴く方法。	
Guessing/Prediction	画面を止めて、発せられた単語の発音、イントネーション、文法構造、イディオムなどをリピートし練習する。
Music Video	英語の曲を観賞後、自分達でビデオクリップを作成する。ただし、多くの時間と労力がかかる。

4) The Split Viewing (Jigsaw Viewing): 学習者を2つのグループに分け、1つのグループは音なしの画像だけを見る。もう片方のグループは画像なしの音声のみを聴く。	
Information-Gap	それぞれのグループから1名出してペアをつくり、2人で information gap activity を行う。お互いの持っている音声と映像の情報を一致させようとするため、大変、interaction が盛んな活動になる。このタスクを行う場合、教師は①音声のみを聴くグループが混乱しないように、なるべく登場人物の少ないシーンを選ぶこと、②information gap が活発になるように、なるべく劇的にまたはユーモラスな展開するシーンを選ぶこと、に気をつけたい。